

デジタル ボイス

メルカウセンリジの現場から

安藤 房子

十月から「ピコピコ」という携帯サイトで結婚コラムの連載をしている。このサイトは独身女性向けの読み物のサイトで、以前は恋の詩の連載をしていた。今回もまた詩を執筆できたかと思、担当者や電話で話していたところ、結婚のコラムをはじめたいんですと言った。ついでに最近、結婚を意識する独身女性が多いらしく、そんな需要にこたえたいという話であった。

言われてみれば、今年は私のところにも、たくさんさんの結婚相談が寄せられた。ただ、その相談内容は、以前とはうんと変化してきたように思う。

かつては、どちらかというとコミュニケーションが苦手という女性からの結婚相談が多かった。出会いの場にはほとんど出かけず、好きな人ができて話しかけることもできない。かつての片思いや失恋をひきずっていて、次の恋をする勇気が持てない。好きになつた相手が既婚者で、いつまでたつて

も奥さんと別れてくれない……そんな女性たちが圧倒的に多かった。

でも最近の独身女性は違う。アクティブでコミュニケーション上手なのが、結婚のことで悩んでいるのである。彼女たちは合コンなどにも積極的に出かけるし、出会いもある。流行を意識したファッションや遊びが得意だし、友達も少なくはない。ミクシィなどの会員制のウェブサイトなどを利用して、自分と同じ趣味を持つ男性とメル友にだってなれる。でも、いまひと

つ結婚にふみきれずにいるのだ。ある地方都市に住む香苗さん(38) 仮名もそうである。

大手企業で働く香苗さんは、ある程度の年収がある。会社のトップが男尊女卑の思想を持っていないため、女性も働きやすい社風だ。そんな中、香苗さんはあるチームのリーダーとしてバリバリ働いている。現在の生活にもかなり満足しているのだが、それゆえに結婚できないのである。

「プライベートでときどき会う男友

結婚したいけど したくない時代

「私のもつとず、四十歳。そろそろ子供を産みたいし、結婚相手を決めなければと思うんです。でもその一方で、出産後も今のようにはバリバリ働けるのか、家事はどうするのかとあれこれ考えて先にすすめないんです。それに、テレビを見ると、妊婦さんが病院でたらいまわしにあつたり、保育園が不足していたり、離婚する人が増えていたり、夫婦間の殺人が多かったり……なんだか結婚したら夢も希望もないような気もしてしまうんです。出産のタイムリミットまでには結婚したいのですが」

香苗さんの気持ちに、私はとても共感してしまつた。

達もいるんです。映画を見に行くならAくん、ドライブに行くならBくん、ワインを飲むならCくんというふう。どの人も悪くないのですが、どの人と結婚するとしても、今より楽しくなると思えなくて。だから、誰かひとりを選ぶということができないんです」



（恋愛カウセラー 作家 大江町出身）
次回回は来年1月6日に掲載します